

# 青森における 北海道新幹線の開業効果と課題



JR奥津軽いまべつ駅

平成28年5月27日  
財務省東北財務局  
青森財務事務所

# 北海道新幹線の開業による観光ルート



道の駅アスカル



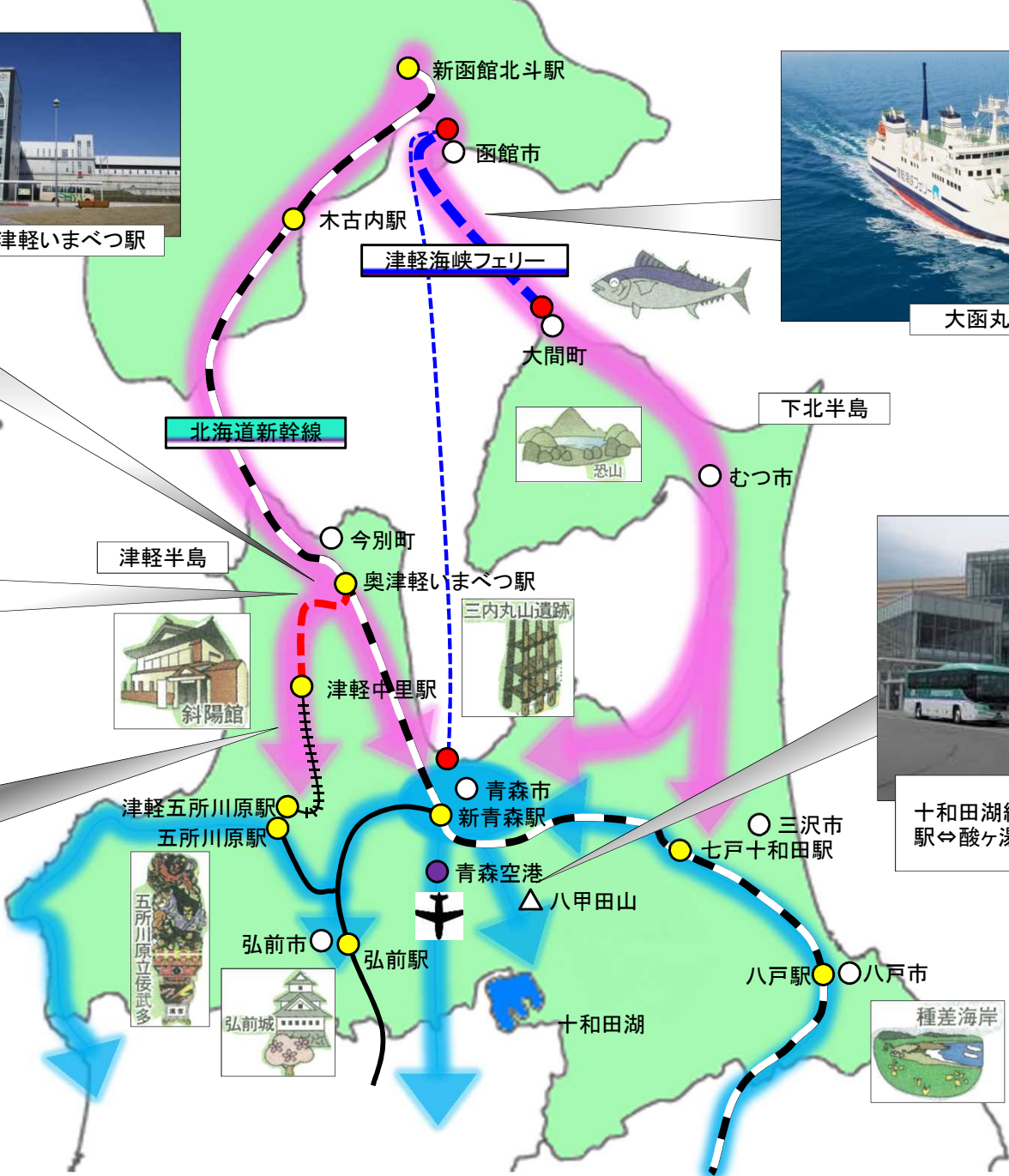
JR奥津軽いまべつ駅



奥津軽いまべつ駅(今別町)から津軽中里駅(中泊町)までの二次交通バス



津軽鉄道



大函丸



津軽海峡フェリー 大間ターミナル



十和田湖線みずうみ号(青森駅・新青森駅⇄酸ヶ湯・奥入瀬溪流・十和田湖)

新幹線開業による新しい観光ルート

既存の観光ルート



斜陽館



三内丸山遺跡



五所川原立後武多



弘前城



種差海岸

# 開業効果と今後の課題

## 開業効果があるとする声

### ○地方公共団体

- 新駅舎開設に伴う維持管理業務や近接する道の駅での雇用が創出された。
- 通学時間(今別町⇄青森市)の短縮などによる通学先(高校)での課外活動が可能となった。

### ○二次交通

- GW期間中はレンタカーが予約で埋まり、車が回らない日もある。
- 二次交通バス開設によりネットワークが広がったのはメリット。

### ○観光施設

- 開業にあわせ、メディアへの露出が増えたこともあり来場者は前年を上回っている。レンタカーでの来場が多い。
- 街歩きツアー等の目的・コンテンツづくりの取組成果や開業効果もあり、観光案内所へ立ち寄る人は増加。旅行客は目的がないと行かないため、立ち寄らせる目的づくりが必要である。

### ○旅館・ホテル

- 宿泊客が函館に流れることを予想していたが、減少していないという点では一定の効果といえる。

### ○旅行商品

- 開業を機に企画された青函周遊ツアーの恩恵を受け、フェリー(函館～大間)の利用客が増加している。

### ○その他

- 青函エリアの経済圏が拡大したことにより、高度医療機器の導入が決定したほか、柔軟な勤務体制(午前青森⇄午後函館等)も可能となった。
- 函館に青森の金融機関が支店を開設していたため、進出にあたって様々な相談ができた。
- 本社会議(弘前市)では、函館社員の滞在時間の増加によるメリットを受けている。

## 開業効果が限定的とする声

### ○ビジネス

- 八戸駅での新幹線の停車本数が減少したことにより、売上が減少。

### ○二次交通

- 二次交通バスの乗車人員が利用見込みを下回っている。
- 当地区は函館を経由するツアーのコースにあるが、宿泊地にはなっていない。個人客が利用しやすいバスなどの二次交通を整えてほしい。
- 課題は、カジュアルクルーズという新たな概念で、単なる移動手段から、観光の一つとして活用することである。

### ○観光施設

- 開業効果がみられたのは開業後2日間のみ。新幹線とフェリーを組み合わせた津軽・渡島・下北などの新たな周遊ルート魅力を発信していくことが課題。
- 津軽半島の竜飛、十三湖、五所川原の斜陽館や立佞武多の館が揃うことによって、初めて本格的に観光客が動いていく。
- 開業効果がみられたのは一週間。八甲田丸、ワラッセ、県立美術館、三内丸山遺跡等の周辺施設との連携が必要。
- 開業効果は速効性のあるものとは考えておらず、悲観的な見方はしていない。

### ○旅館・ホテル

- 開業を好機と捉えていたが効果としてはプラスとなっていない。今後は函館の旅館・ホテルと連携した企画商品の開発が課題。

### ○旅行商品

- 青森と函館を組合せた商品は売れ行きが厳しい。

### ○その他

- 地元学生を青函エリアに残していく取組みが必要である。

- 課題**
- 二次交通の整備と活用
  - 観光の魅力をアップさせるための連携・協力
  - 青函地域を1つのエリアと捉えた交流の進化